

## 御船高等学校 平成26年度学校評価表

平成27年5月16日(土)

## 1 学校評価の方法

平成26年 6月26日(水)	目標設定
平成26年12月 1日(月) ～12月12日(金)	自己評価 (アンケート実施(生徒アンケート・保護者アンケート・職員アンケート))
平成27年 2月20日(金)	学校関係者による評価(学校評議員会による評価)

## 2 学校教育目標

- |                           |                            |
|---------------------------|----------------------------|
| (1) 社会規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立 | (5) 健康・安全教育の徹底と学習環境整備の推進   |
| (2) 確かな学力の育成              | (6) 部活動の活性化と地域に根ざした学校行事の推進 |
| (3) 個性を伸ばす進路指導とキャリア教育の充実  | (7) 地域に信頼される特色ある学校づくり      |
| (4) 心の教育の充実               |                            |

## 3 本年度の重点目標

- |   |
|---|
| (1) 社会規範意識の醸成と豊かな情操・道徳心の育成<br>ア 生徒会活動の活性化による「あいさつ、服装、時間の管理、交通マナー」の向上等、主体的に自己改革に取り組む態度の育成に努める。<br>イ 他者への思いやりの心や人権を尊重する心を育むなど、心の教育の充実にも努めるとともに、特に、学級における仲間づくりに配慮した教育活動を推進する。  |
| (2) 高い目標の進路実現を図る指導体制とキャリア教育の充実<br>ア 習熟度別指導や個別指導等による個に応じた指導の工夫・改善を進め、学習習慣の確立を図り、進路・適性等に応じた能力の向上と技術を身に付けさせる。<br>イ 進路研究、進路講演会の充実を図り、主体的に進路を選択、決定できる能力や勤労観・職業観をはぐくむキャリア教育を推進する。<br>ウ 3年間を見据えた進路指導体制の確立に努める。特に、二者面談、三者面談を充実させるなど、年間指導計画のもと継続的な進路指導を推進する。 |
| (3) 全人教育としての部活動の振興  |

## 4 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	共有と協働	一体感のある教育活動の取組	課題の共有による全職員の協働意識の喚起と実働	学校行事並びにセミナーハウス活用の工夫と改善	B	式典時の集合体形や手順を変更したことで、時間短縮できた。掃除中に校歌を流すことで愛校心の高揚につながった。セミナー利用では、毎月呼びかけを行い積極的な活用ができた。年間を通じた行事精選では時間が不足し、十分な話し合いが取れなかった。次年度につなげたい。
			校務運営の円滑化・効率化	HP、保護者会、育友会便りを通じ学校目標の周知 職員間の事前協議の徹底 防災教育の徹底	B	保護者のアンケート結果から、8割を越える保護者が本校教育方針に理解を示されている。また、本校に入学させて良かったとの回答は9割を超えた。引き続き徹底した周知を図っていきたい。 職員間の事前協議では、要項作成の早期着手を心掛けることで、職員の周知徹底が図られた。 防災訓練では、生徒の機敏な動作は見られたが、全体として防災意識の低さが感じられる。
	地域連携と広報活動の推進	地域に信頼され愛される学校	御船町や町内各種団体、近隣小中大学との連携の充実 募集定員を上回る受検生の確保	保護者や中学校、地域住民に授業公開と行事等への積極的参加 体験入学や高校説明会の工夫、中学校訪問を通じての学校連携強化	B	本校の体育祭や文化祭などに保護者のアンケートから、良かったという意見が多かったが、一方で改善してほしいとの意見もあり、今後、更なる工夫を図っていく。 公開授業等では、保護者や地域の方の参加が少ないので、次年度は広報活動に工夫を行っていく。 本校の教育の特色や生徒の頑張りを、体験入学や中学校訪問、学校説明会など様々な機会に発信しているが、生徒募集に繋がらなかった。発想を変えた新たな取組を行っていく。

学力向上	教師の授業力向上	教科指導法研究と指導力の向上（分かりやすい授業の実践）	校内・校外に対する授業の公開と授業の改善	研究授業を各教科年2回以上実施	A	年2回実施する授業研究週間では、「わかる授業」について協議を行った。11月の授業研究では県教育センターから、計6教科で授業法について指導を受け、授業作りに大いに役立った。
	生徒の学力向上	家庭学習習慣の確立	毎日継続した家庭学習時間が昨年度を上回る	学習課題の工夫と宅習時間調査を活用した指導	B	定期考査前に生徒全員が自ら学習計画を立て、考査後には、達成度を測る宅習時間調査を行った。生徒の学習意欲向上に成果は上がったが、取り組む姿勢に差があり、今後、データの活用が課題である。
		規律ある授業の維持	落ち着いた態度での授業への集中	教室内の整理整頓 3秒礼の徹底 こまめなノートチェック	B	御船高校の自覚と誇りを持つよう指導を継続してきた。3秒礼やあいさつ運動ではまだ一部の生徒の声が小さいという声もあるが、規律ある授業態度が達成できている。
	個別指導の充実	継続的な個別指導の実施と学校をあげての協力	進路意識の向上と個々の生徒の学力に応じた指導	基礎学力向上「学びの森」の実施と事後指導の徹底 生徒の動機付けと個々の生徒に応じた指導内容の工夫	B	「学びの森」については、短い時間であるが、生徒の取り組む姿勢も向上し、有用な取組となった。ただ、授業への取組については、まだ意識が低い面が見られた。次年度は家庭学習と、どのように関連させていくかを課題としたい。
キャリア教育(進路指導)	就職指導の充実	ライフプランを明確に描き、適性にあった職業に就くこと	普通科、電子機械科共に就職内定率100%の達成	ライフプラン講座や職業講話の実施 関連機関との連携強化	A	キャリアサポーターによる講話や面談、また、雇用環境整備協会等の諸機関と連携し、就職ガイダンス等を実施した。結果、生徒の就職に対する意識が高まった。
			生徒の希望に合う求人開拓	キャリアサポーターとの連携による求人開拓 県内外の企業訪問の充実	A	就職担当教諭やキャリアサポーターを中心に、県内外の企業や事業所を積極的に訪問したことで、昨年度を上回る求人数を得た。求人の内容も生徒の適性に合うものが増えた。
	進学指導の充実	生徒・保護者の多様な進路希望に応えること	第一志望校への合格率95%以上	進路希望調査や模擬試験結果等の客観的資料を用い、生徒一人一人に的確なアドバイス	B	進路希望調査や模擬試験の受験結果等を参照しながら、担任を中心に二者面談や三者面談を綿密に実施した。結果、多くの生徒が自分の希望する進路目標を達成することができた。第一志望校への合格率は92%程度であった。
			国公立大学合格10人以上	受験に必要な教科や面接・小論文等の個別指導の充実 課外指導の工夫・改善	C	A・O・推薦入学試験対策を中心に、生徒の個性を活かす個別指導に取り組んだ。課外授業では、3年生で時間割の組み方を工夫したり、2年生の冬期休業中に小論文対策を導入するなど改善を行った。目標である国公立大合格10人以上には届かなかった。
	キャリア教育の推進	生徒が自分を知ること、仕事を知ること、表現できること	3年間を通じた本校独自のキャリア教育プランの作成	地域社会の協力のもと、2学年のインターンシップ実施 全学年にキャリア発達を促す講話の実施	A	昨年度に続き、2年生全員のインターンシップを実施した。普通科は5日間に期間を延ばし、さらに充実した取組を行った。また、今年度から県の「夢」教育サポート推進事業を活用し、キャリア教育発達を促す進路講演会を実施した。「学びの森」は、全職員による指導のもと、継続的な取組として実施した。今後は予定よりも進度が遅れた生徒への指導を充実させたい。
			GTZ（学習到達度ゾーン）の成績向上	基礎学力向上「学びの森」を、年間を通し毎日実施		
生徒指導	生活指導と交通指導の徹底	規範意識と交通安全意識の高揚	挨拶の励行（来校者から褒められる礼法の徹底）	朝の挨拶運動の定例化	C	学期毎に生徒会・保護者による挨拶運動を実施したが周囲に褒められるまでは不十分であった。次年度は毎月1回実施するなど、工夫・改善を行っていく。 3秒礼の意識は定着しつつある。今後は「一正一礼」ができるようにしていく。
				3秒礼定着週間の実施	B	
			遅刻・服装頭髪違反者が昨年度を下回る指導の徹底	全生徒・全職員による天ぎな声での校歌斉唱	C	式典での校歌は天ぎな声が出せていない。次年度は月に1回「全校終礼」を実施するなどして、指導の充実を図りたい。
				全職員による頭髪服装検査の徹底と事後指導の充実	A	検査や事後指導で、全職員の共通理解のもと、徹底した指導ができた。今後も生徒と職員の深い信頼関係のもと、地域からも評価される船高にしていく。
毎月遅刻生徒への奉仕活動を通じた指導	B	遅刻した生徒には、職員と一緒に奉仕作業に取り組む姿が見られた。生徒と職員の間にならぬ新たな信頼関係もできている。				
交通違反及び事故件数が昨年度を下回る指導の徹底	毎月「交通安全の日」による登校指導と交通講話の実施 免許取得生徒の交通安全運転実技講習会の実施	C	本年度の交通事故・違反件数が昨年度を上回った。講習会の時期や回数、登校指導については、更なる工夫・改善を行っていく。			

人権教育の推進	生徒、職員の人権意識の向上	推進体制の機能強化と研修の充実	人権教育LHRの事前研修の充実	人権教育LHR事前研修会を職員研修と位置付け、年3回実施	B	校外研修については、全体に呼びかけることで、多くの職員が参加したが、全職員の参加が難しかった。今後は、校内研修を充実していくことで、職員の人権意識の向上を図っていく。 本年度はハンセン病を正しく理解し、偏見や差別のない社会を目指す目的で外部講師を招き、講演会を実施した。
	命を大切にすることを育む指導	かけがえのない自他の生命を尊重する心の育成	各教科等における心に響く多様な指導の展開	各教科における生命尊重の指導場面の明確化と実践 職員間による生命尊重の指導実践の共有化と授業研究	A	人権教育LHRや教科の授業で、命を大切にすることを育むことができる単元等を実践し、思いやりの心、生命を尊重する心の育成に取り組んだ。
いじめの防止等	学校、家庭、地域社会における取組の充実	学校生活に安心・安全に適應できるような援助	いじめ発生時の迅速な対応と継続的な取組のもと、解決率100%の達成	生徒通信「あゆみ」の定期的発行による未然防止 家庭訪問や二者面談の充実 スクールカウンセラーの積極的な活用	B	担任や学年主任をはじめ多くの職員が関わりながら個別の面談や家庭訪問を行った。また、SCやSSWを活用し、生徒や保護者の悩みや相談に対応するなど、家庭との連携を図ることができた。今後も、不登校の生徒に対して、保護者側の理解や協力を得ながら現状の改善に努めていく。
	すべての教育活動を通じた取組の強化	自他の人権を尊重する意識と態度の育成	生徒の現状把握と課題をもった生徒への支援体制の整備	生徒実態調査を年2回実施 アンケート結果や生徒・職員からの情報を全職員で共有し、具体的対策を迅速・適切に押し進める	A	6月と12月に生徒実態調査を行い、いじめの早期発見に努めた。担任を中心にいじめを訴えた生徒へ迅速に対応し、いじめの継続件数は減少した。また、職員会議をはじめ学年部会、教科会等で全職員で情報を共有し、共通理解をもった指導体制を築くことができた。
環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己健康管理意識の高揚	食事・睡眠・排泄など基本的な生活習慣の確立	保健だよりによる健康意識の向上 専門家による各種講演会等の実施 保健室来室時の個別相談	A	保健だよりを定期的に発行し、感染症や救急法などを適宜取り上げた。 講演会は、性教育を2回、薬物乱用防止を1回実施。生徒が自分自身の問題として捉える感想文が多く見られた。 保健室に来室した生徒に対し、ケガや病気への対応、相談など一人ひとりの心身の状況に応じた指導を行うことができた。
	環境整備の徹底	身の回りの清潔・整理整頓への意識の高揚	掃除の徹底とゴミの分別の徹底	掃除時間の確保と掃除活動の充実 環境ISOの周知呼びかけ 各種検査の実施(飲料水の水質、空気、照度、換気)	C	掃除指導は、時間一杯掃除する生徒とそうでない生徒が見られ、掃除へ意識付けが課題であった。次年度、美化コンクールをさらに充実させるなど工夫を行っていく。 環境ISOについては周知、呼びかけが不十分であった。一方、裏紙使用やエアコンの使用規定などの取組は個人で行われており、今後も目に見える形での周知、呼びかけを行う。
図書	読書指導の徹底	全教職員による読書指導の徹底	教室の美化など読書環境の整備	朝の読書指導の徹底 月1回の集団読書の徹底	A	正担任・副担任による2人制の指導体制が確立し、読書環境が整った。朝読書から読書に目覚める生徒も増える傾向にあり、今後も、読書力をつけさせていく。
	図書館利用の活性化	貸出数の増加(広報活動の充実)	一人あたりの年間貸出数を昨年度(14.0冊を上回る)	蔵書に関する広報活動の充実 展示に工夫を凝らし、魅力ある図書館の創造	C	広報活動は、図書委員の頑張りにより、図書館へ出入りしやすい環境となり、来館者も増えた。 ただ、目標の貸出数アップについては、本年度8.3冊となり、昨年度を下回る結果となった。
情報管理	サーバー・ネットワーク全般の運用、管理	校務用PCの保守と電子データの管理	PCトラブルへの迅速な対応 適切な校務用PCの保守と電子データの管理	対応職員の情報交換と複数での対応 PCトラブルへの迅速で適切な対応	B	ユーザプロファイル破損が3台あったが、速やかに対処できた。その他大きなトラブルは無かったが、今後も引き続きトラブル対応に備えていく。
	行事等の最新情報発信	学校ホームページの運営 「船高安心メール」の有効活用	充実したホームページの制作と適宜な更新 保護者の登録者数の増加	行事担当職員の迅速な情報提供と掲載 ページ構成を考慮し、見やすさの追求 育友会等による登録の呼びかけ	B	メニューに「保健室より」、「いじめ防止基本方針」、「学校評価」を追加した。罹患証明書を家庭でも印刷できるようにした。 月初めには生徒用行事予定表をPDFで公開し、各行事に対しては写真等を使って最新の情報が発信できた。 船高安心メール保護者登録総数が485人、生徒登録総数が291人であり、それぞれ75.5%、45.3%であった。

## 5 学校関係者評価

- ・御船高校は、校舎内外とも、清掃されている。
  - ・御船高校生は小粒でおとなしいイメージを受ける。学校外での様子をたまに見るが、問題行動を見たことはない。ただ、時に単車・自転車通学生のマナーの悪さが目立った。
  - ・朝課外や夕課外は、ほとんどの保護者が納得されている。面談は、ほとんどの方が個人面談を多く望まれているようだ。
  - ・部活動では、マイコン制御部の全国アイデアロボット競技大会優勝、野球部の躍進、書道部の書道パフォーマンスに代表されるように、体育系・文化系ともメディアに取り上げられることが多く、本校活性化につながっている。部活動を通しての船高生の活躍を期待している。
  - ・本校職員はよく頑張っている。業務多忙が背景にあるのかもしれないが、保護者や地域とのコミュニケーションも大切にしてほしい。
  - ・学校からの配布プリントは、持ち帰って保護者に伝えているか。指導の徹底が必要である。
  - ・服装頭髪指導では、保護者のアンケートなどでも指導の受け取り方が異なっているようだ。保護者への十分な説明をした方がよい。
  - ・御船高校は、工業科、芸術コース等、多様な生徒に対し適切な対応がとれるバランスの取れた素晴らしい学校だと思う。
- などの意見が寄せられた。

## 6 総合評価

本校の三綱領「誠実・自学・自律」の精神の涵養を図ることを教育目標に、全職員による共有と協働のもと取り組んできた。学校評価関係者による「御船高校は保護者や地域社会から信頼度されている。」の評価については90%、また、保護者による「子供さんを御船高校に入れてよかったか。」の問いに対しては86.8%の人がよかったという良好な結果が得られた。学校評議員の方々からも、本校の教育目標実現に向けた取組について、いくつかの課題はあるものの概ね良好な結果を評価していただくことができた。

## 7 平成27年度への課題・改善方策

3.自己評価総括表、4.学校関係者評価をもとに、課題の見直しを行い、関係分掌部を中心に具体的な改善案を出し、全職員で改善に取り組み、次年度、生徒、保護者、地域からの信頼度をさらに高めていきたい。また、地域との連携、育友会や同窓会との連携をさらに強め、本校の特色をこれまで以上に発展させていきたい。